

## JCに入会して良かった事



青山 雅史  
株式会社引商社  
代表取締役

僕は青年会議所の事は入会するまで全く知りませんでした。入会する際に、初めの半年間(研修期間)は時間を作って欲しいと言われていましたが、ここまで時間を使うとは思っていませんでした。聞いていた話と違うと思う時期もありましたが、今振り返ってみると非常に充実した半年間だった様に思います。大人になって、経営者になるとなかなか利害関係の無い人と付き合う事が減ると思います。JCに入会し年齢、職種の違う利害関係が全くない12名の同期と過ごした半年間は僕にとって様々な気づきと成長をくれたと感じています。これから新しい委員会に配属されて同期とは別々に行動をする事になりますが、現役のメンバーの方々との繋がりが出来、また新しい気づきと成長があると感じています。仕事との両立をしっかりと青年会議所活動にも邁進したいと思っています。



平田 知之  
株式会社ヒラタ  
専務取締役

昨年の7月に岡山JCに入会させていただき、早くも10ヵ月が過ぎました。研修期間中のスケジュール調整は大変でしたが、12名もの個性豊かな同期に恵まれ、仕事のこと、家庭のこと、趣味やJCについて、多くのことを語り合い、時間やお金には変えられない大切なものが得られました。また、役不足ながら、クリスマス家族会のリーダーを務めさせていただきました。クリスマスに関わる、お菓子の材料や機械を扱っている仕事柄、アトラクションやプレゼントの内容など、自分の立場を活かし且つ、子供や保護者の方に喜んでいただける内容を考えて、形にさせていただきました。年末の繁忙期の中、みんなで手分けしてこの会を作り上げたこと、今終わって振り返ると、達成感ともうこの同期での共同作業がないことに一抹の寂しさも感じます。このような貴重な経験を与えていただき、本当にありがとうございました。この研修期間で学んだことをこれからのJC活動に、また仕事に活かしていきたいと思っています。

## Junior Chamber International Okayama 公益社団法人岡山青年会議所 入会のご案内



私たち公益社団法人岡山青年会議所は、20歳から40歳までの次世代を担う若きリーダーが集う組織です。地域社会の発展のため、次世代のまちづくりのために青年会議所の活動を通じ、幅広い交流範囲の様々な人との「出会い」や「学び」、「成長」を繰り返します。地域社会や組織において、より優れたリーダーとなるための切磋琢磨を重ね、より豊かなまちづくりと人づくりを目指します。皆様もぜひ私たちと一緒に岡山青年会議所で、新たな可能性にチャレンジしましょう。

**年齢・資格** 満20歳以上39歳以下 (H8.1.1生~S52.1.1生) の 品格のある男女

**募集期間** 随時募集しております。詳しくは、下記事務局までお電話にてご連絡ください。

### 入会に際して必要なものです

- 入会申込書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 履歴書
- 入会誓約書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 入会承諾書
- 作文 題目「岡山JC入会にあたって」※万年筆またはボールペンで、楷書で記入のこと ※700字以上
- 会社謄本 ※資格のみで正業に従事する場合は、資格者証の写し
- 本人の住民票
- 写真 ※縦4cm横3cm 4枚(うち一枚は履歴書に貼付) ※白黒写真ネクタイ着用・スピード写真不可

**〈事務局〉** TEL: 086-223-0938 FAX: 086-225-0500 E-mail: info@jci-okayama.com  
〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F

## 2016年度 岡山JCホームページ・facebook

岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業紹介や会員拡大情報など随時更新しております。お気軽にホームページをご覧ください。

### ホームページアドレス

<http://www.okjc.org/2016/>



### facebook

<https://www.facebook.com/okjc.org>



## 2016年度 広報誌「暖流」Vol.2

■発行日/平成28年5月30日  
■発行/公益社団法人岡山青年会議所  
〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F  
TEL:086-223-0938 FAX:086-225-0500  
URL <http://www.okjc.org/2016/>  
E-mail info@jci-okayama.com

■発行責任者/公益社団法人岡山青年会議所  
岡山JCの魅力発信委員会 委員長 上神 健治  
末長 一範 難波 秀明 藤井 大温  
安部 真良 芦田 香奈子 安定 あい 河野 初仁  
佐藤 史成 高山 晃一 竹本 幸史 難波 宏行  
■印 刷/株式会社岡文館印刷所

★次号は6月発行予定です。



環境に配慮し、古紙/リサイクル配合率100%の再生紙と植物性大豆インキを使用しています。



# 暖流

VOI. 2  
2016.MAY  
~DANRYU~

## OKAYAMA JC REPORT DANRYU 2016

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL OKAYAMA

題字：佐野 範一



## 対談

「LEON」編集長

前田陽一郎

公益社団法人岡山青年会議所  
第66代理事長

佐野 範一

PICK UP ■岡山JC魅力体験キャンプ ■うらじゃ



公益社団法人岡山青年会議所  
Junior Chamber International Okayama

URL <http://www.okjc.org/2016/>  
E-mail [info@jci-okayama.com](mailto:info@jci-okayama.com)



# 特別対談

「LEON」編集長 前田陽一郎 × 第66代理事長 佐野 範一



**佐野理事長**：今日は、どうぞよろしくお願いいたします。

**前田陽一郎**：よろしくお願いします。佐野さんは今おいくつでいらっしゃいますか？

**佐野理事長**：今年で39歳になります。青年会議所は40歳までの団体ですので、来年が卒業の年になります。私は今年の1月1日から12月31日まで岡山青年会議所の理事長をさせていただいております。今年は理事長をさせていただいておりますけど、来年はまた別の方が理事長になるので、私はその補佐役などとは違う役割に変わります。1年ごとに役割が変わることで組織としてのフレッシュさを保っています。40歳でこの組織を卒業して、メンバーが毎年入れ替わるので、ずっと同じ人が会長になるという組織ではないところが特長ですね。

**前田陽一郎**：僕は三重県の伊勢出身なのですが、妹が嫁いだ先が伊勢の蒲鉾屋さんで、その蒲鉾屋さんの若旦那っていうのが、かつて青年会議所の理事長をやっていましたね。伊勢の式年遷宮の直前くらいまで、いろんな祭りに参加したり、取りまとめをしたりしていました。

**佐野理事長**：伊勢の青年会議所ですと、恐らく歴史があると思いますので、そこで培った人脈がやはり結果的に商売に繋がっていくでしょうね。本業をしながら、そういった活動をしているということは、信用をおけるネットワークになりますし……。すごく頑張られたのだからと思いますね。

**前田陽一郎**：今は伊勢志摩サミットが近づいているので、ラジオやテレビで伊勢を語るときには、今でもしょっちゅうメディアに出てくるくらい一生懸命やっていますね。

今日の話はそうした地域のことも含めた、限られたターゲットに対してターゲットエリアをどう作っていくかという話になるのですが、「LEON」も一度、ターゲットからリブランディングされている雑誌だと思っています。初期はもう少しざっくりと、当時の人たちが思い描く「おやじ」っていう自覚を持った人全てがターゲットでした。もちろん、今もそれは変わらないのですが、「ちょい不良(ワル)」という言葉が出てくることでイメージが絞られてしまったんです。それから時代がちょっとずれ始めてから、これはもう一度ターゲットし直さないと、言葉だけがひとり歩きしすぎていて危険だと判断したので、そこから一度、方向性を変えていますね。

その時に掲げたのが、「共感・共有・共犯」というもので、男として魅力的な充実したライフスタイル、自由なライフスタイルを送っていきたくと

思っている全ての人という括り方に変えました。だから20代の読者もいます。そんな人たちに話を聞いてみると「LEON」に出ている物を買うというより、この世界観を好きになってくれるようです。だとしたら、何かターゲットを仮定するよりも、こういう価値観を持った人たちと、「共感・共有・共犯」することができれば良いのではないかと。だから、47歳の僕がつくる「LEON」というものに対して、27歳が共感しても全然不思議じゃないと思うんですね。

**佐野理事長**：モノが溢れている中で「コレ」というものを提案しても、なかなかうまくいかないと思います。青年会議所の活動も、こういう活動の理念があるから一緒にやろうというメンバーも多いですし、そういう集まりでなければ、なかなか続かないですね。

**前田陽一郎**：例えば、今までのマズビジネスは、100人に1万円ずつ落としてもらって100万円にするというものでした。しかし「LEON」の場合は、10人の人たちに10万円ずつ落としてもらって100万円にするというモデル。これは、今の地域活性ビジネスとシンクロする部分があると思います。同じ100万円でも50人乗り観光バスを2台用意して、一人1万円を分け合うビジネスのスキームもあれば、10人の限られた人に対して10万円のスペシャルな体験をしようというビジネスもある。結果的に落ちるお金は100万円。しかし100人の人たちを動かすには、大型観光バスや停められる場所を用意しないといけないし、100人を一度に収容できる食べ物屋さんも必要です。それが毎回続くわけではないので、その人たちが来ないときには、そのスペースの問題も起こる。これがハコモノの限界だったと思うのです。ですが「LEON」が考えているようなビジネスは10人の人たちに10万円を落としてもらえば良いので、大きなスペースは必要ない。小さな箱で大きなビジネスを展開できるということが特長だったりもします。

**佐野理事長**：なるほど。面白いですね。例えば「ななつ星」もそうですね。特定の層で付加価値を持ったラグジュアリーな体験が流行っている。今はどうやってそのニーズや、気付いていない視点を街づくりとして活かして、地域の魅力を発信することが求められていると思うので、大きなヒントをもらったなと…。

**前田陽一郎**：巨大な人の流れをつくっていく時代には、10人が100人を相手にするビジネスを考えなければいけない。これが高度成長期の日本です。しかし土着のビジネスからそれを見出していくのは非常に難しいと思うんです。成熟してしまった社会では、10人が10人を接客して、100万円をつくるビジネスの方が想像しやすい。「LEON」は、成熟した情報社会の中で10人が接客して100人の人たちに10万円を落としてもらう、「こだわりビジネス」みたいなものです。

**佐野理事長**：まさに今の日本の時代にあったビジネスですね。今は人口が減っていますし、みんな満たされていますから、モノではなく価値を共有したり共感になったりしていくのかなと思います。

**前田陽一郎**：そうですね。これは地域活性のヒントになるのか分らないのですが、伊勢は日本のひとつのブランドの一角とされています。ところが今から30年前くらいは、ほとんどの人が知りませんでした。

**佐野理事長**：伊勢といえば赤福くらいしか知らないっていう人が多かったかもしれないですね。

**前田陽一郎**：それがいつの間にか京都に及ばないまでも、伊勢にはいつか行ってみたいというブランドになったのは、ここ10年以内の話なんです。実は伊勢っていうのは一度リブランディングされているんですね。それが岡山青年会議所の人たちの何か、気づきになるかも知れませんが…。

**佐野理事長**：面白そうですね。それは絶対聞いてみたいです。

**前田陽一郎**：ブランドをつくっていくには、まず認知が必要だと思うんですよ。そしてそのためには、100人に1万円ずつ落としてもらって100万円をつくるっていうビジネスがベースになればいけないと思うんです。例えば、岡山の桃は一つのブランドですよ。無名の産地の桃と比べたときに、岡山が1個300円、無名のところが100円。でも岡山はブランドだから美味しいだろうと買う。これはまさに10人の人が10万円を払って100万円をつくるというビジネスと同じです。岡山の桃は美味しいという認知があるから300円の値が付られるのだと思うんですよ。そして、ここに至るまでには、100人の人たちに美味しい桃を安く提供することで認知をしようという「認知ビジネス」の段階が必要だったはずなんです。けれども、それがブランドとなってしまうと今度は違うビジネスが生まれてくる。これは伊勢も「LEON」も一緒です。成熟した産業と、認知の成熟が起これば、あとはそれを長く持続させていくための「こだわりビジネス」というものが存在していて、そのこだわり度によってビジネスのスキームが微妙に違ってくる。

**佐野理事長**：こだわり度ですか…

**前田陽一郎**：そうですね。ですが「こだわり」という言葉はニュアンスなので、何を以て定義するのかがあいまいで、雲をつかむような話なんです。例えば倉敷のデニムがありますが、モノは凄く良い。「こんなにこだわっている」という事も分かるのですが、欲しくなりません。ディオールのオムのデニムも同じ工場で作られていて、しかもディオールの半額で売られているのですが、僕からすれば倍のお金を払ってディオールを買います。こだわらなければビジネスにならないんですよ。みんな10人に10万円をおとしてもらって100万円にするビジネスを模索します。しかし、上手いかわからない事例が多いのは、実はそこ到達するまでにいくつもの段階があって、マズとは違う難しさがあるからだと思います。地域活性の可能性というのは、むしろ今からだと思っていて、再認知が終了したその先、もしくは終了しないでも同時並行で10人に10万円を落としてもらって100万円にするビジネスを考えなければならない段階なのかも知れませんが…。

僕から見ていると瀬戸内は認知を上げながら、10人に10万円を消費してもらってビジネスを同時にできているなという印象を受けますね。「U2」ってあるじゃないですか？



**佐野理事長**：尾道ですか？

**前田陽一郎**：そうですね。あれは10人に10万円を落としてもらってビジネスに足を突っ込んだ、ひとつの形だと思っています。建築家・谷尻誠という

ブランドがあるから、あそこはファッションブルなイメージが生まれて、東京からも人が来る。さらに上手いのが「しまなみ海道」という認知のあるブランドにアクセスさせることで、100人に1万円を落としてもらうビジネスにも足を突っ込んでいます。あの場所を動かしているのが造船・海運大手である常石グループで、ペラピスタというリゾートホテルも持っている。それらを連携させていくことで、さらに新しいビジネスを展開していこうという意図が見えます。

それは岡山や倉敷の関係に案外近いのではないかと思います。倉敷も全国的に認知のあるブランドだし、岡山には名産もある。しかし土地のイメージがいまいち浮かばない。その土地のイメージを強烈に作れる何かがあって、その点を結んで、どうやって面をつくっていくのか。この面というのがブランドだと考えていますが、今、地方はそういう段階にあるのかなと思っています。

恐らく「ONOMICHI U2」だけではブランドになりません。「しまなみ」という基盤になるものがあり、尾道という全国に認知されているものがあるからピラピスタとして成立しているのだと思います。さらに富裕層の人たちがピラピスタに泊まって、クルーザーに乗り、しまなみ海道を自転車で走る。それだけでラグジュアリーな気分は満たされますから。ペラピスタに1泊、U2に1泊、また戻ってペラピスタで1泊して、飛行機で韓国に渡るみたいなことが、彼らが考えているひとつのビジネスじゃないかなと思います。

だから、ひとつの点でどれだけ頑張ってもダメで、点と点を繋ぐ線が必要なんです。彼らの場合、例えばクルーザーや、しまなみ海道という線ですが、これを面にしていくには、もうひとつそれを受けるものがあり、三角形をつくることで地域が動きあがるのではないかなと思いますね。

**佐野理事長**：なるほど。その仮説は面白いですね。それ検証してみたいですね。



**前田陽一郎**：その尾道も実は認知されているようでいて、滞留時間が短いんです。みんな広島まで通りすぎてしまう。もしかすると、岡山や倉敷が抱えている問題もそこにあるのかもしれないですね。これは以前の伊勢も同じで、内宮を見終わると名古屋に帰られてしまう場所でした。これじゃダメだということで生まれたのが「おかげ横丁」で、赤福本店の目の前を赤福の資本で全部作り直したんです。そこにパワースポットブームという発火剤で、ようやく面ができあがり始めるんですよ。

そして現在、富裕層が泊まりたくなるようなホテルができつつあり、そこに大量の集客ができるような仕組みができています。そうすることで、認知と滞留スペース、宿泊できるハコができあがって、ようやく地域として持続的なビジネス展開ができるようになってつつあるなと見ています。これから岡山もそういう段階を踏んでいくのではないのでしょうか。

**佐野理事長**：そうですね。これから岡山にもそういうモノをつくっていければと思いますね。



## 事業報告

### 公益社団法人 日本青年会議所 京都会議 1月21日(木)~24日(日)



公益社団法人 日本青年会議所 京都会議(2016年1月21日(木)~24日(日) 国立京都国際会館)が開催されました。冒頭、第65代会頭 山本樹育氏が挨拶をされ「強く優しくあらゆる価値の根源となれ!」をスローガンに今年一年の決意を述べられました。そして本年度の京都会議は「パラダイムシフト」をテーマに開催。各フォーラム・セミナーも行われ、「パラダイムシフト」の重要性と必要性を議論しました。岡山会議所からは60名あまりのメンバーが参加しました。

交流室 渉外委員会 副委員長 金沢竜志

### 歴代理事長会議 2月4日(木)



岡山青年会議所の隆盛を支えられた中島博第20代理事長(ナカシマホールディングス株式会社代表取締役会長)をはじめとされます。現在も郷土岡山を牽引される歴代理事長の皆様24名にお越しいただき、岡山青年会議所歴代理事長会議が、厳かな雰囲気の中、荒手茶寮にて開催されました。

冒頭、佐野理事長が挨拶を行い、その後、現役メンバーから現状報告や、取り組んでいる事業についての説明をさせていただきました。

歴代理事長の皆様からは、岡山青年会議

所の歴史や伝統、今後の在り方等、この会でしか聞くことのできない、貴重なお話を聞かせていただく事ができました。この日学んだ事を、今後の青年会議所活動に活かしていきたいと思っております。

総務室 総務委員会 副委員長 柴田 収

## 事業報告

### 3月ビジネスセミナー



3月2日(水)岡山プラザホテルにて3月例会とビジネスセミナー「リーダーとしての自覚 ～選ばれ続けるリーダーの条件～」がとり行われました。岡山県の青年経済人を対象として約150名を迎え、元アップル・ジャパン社長、本国アップル副社長を務めた山元賢治様が登壇されました。世界で選ばれたリーダーの条件、リーダーシップ論について講演いただき、講演後の質疑応答も大変活発に行われました。今後も同様のセミナーを通じて人材育成と交流の場をご提供できるようにいたします。

拡大室 岡山JCの魅力発信委員会 副委員長 藤井大温

### 岡山さくらカーニバル終了後の一斉清掃



岡山青年会議所は、県内外多くの人々に親しまれる岡山を代表するまつりである「岡山さくらカーニバル」の実行委員会メンバーとして毎年参加し、まつり終了時に会場の清掃を行っております。本年も4月7日には、あいにくの天候、また早朝にもかかわらず多くの現役会員が、まつりの継続の為に清掃活動に参加いたしました。岡山に必要とされる団体であり続けるため、まちのための活動を今後も継続してまいります。

まちづくり室 まちづくり委員会 副委員長 岸 紘史

### 熊本地震支援金募金活動



平成28年4月に生じた熊本地震に被災された方の支援として4月18から20日、25日から27日までの6日間、岡山駅前におきまして熊本地震支援金募金活動を行いました。岡山の地での何か支援かできないか「わたしたちができることを続ける」ためこの活動を行いました。岡山青年会議所のゴルフ同好会であるじやがいもクラブより300,000円、岡山駅前における募金活動等により1,091,854円、合計1,391,854円の支援金をいただきました。公益社団法人日本青年会議

所を通じ、お届けさせていただきましたのでご報告させていただきます。また、4月20日には多くの皆様からご協力をいただいた支援物資である水を岡山青年会議所の現役会員の3名が直接、被災地である熊本へ届けました。岡山青年会議所では今後も、被災された方が笑顔で暮らせる日が来るよう支援してまいります。

まちづくり室 岡山の未来創造委員会 副委員長 正保宏倫



## 同好会報告

### 岡山ブロック会員懇親野球大会



私たち2016年度野球部は、全国制覇を目標に週二回の練習と練習試合を重ねてまいりました。これは、本年度卒業される方々と少しでも多くの時間を共有し、多くの思い出を残したいという気持ちがあったからです。しかし、結果と致しましては二回戦敗退という結果となってしまう、悔し涙を流す事となりました。野球部という同好会を通し、共に喜びや悲しみを共有出来た事で多くの絆が生まれたと思います。また、多くの特別会員の先輩方と現役会員の皆様には遠く笠岡の地まで応援に来ていただき誠にありがとうございました。今後野球部としましてはこの悔しさをバネに来年こそは全国制覇を成し遂げられるよう、さらなる努力をして参ります。

### じゃがいもクラブ例会(理事長杯・会長杯)

岡山JＣじゃがいもクラブでは、現役会員と多くの特別会員の皆様方と、ゴルフを通じて、懇親を深めております。第1例会では、岡山カントリークラブ桃の郷コースにて43名、第2例会では、鬼ノ城ゴルフ倶楽部にて、31名の方々に参加いただき盛大に開催されました。第1例会では、重藤武士先輩が、第2例会では、山口哲史先輩が見事優勝されました。今後も、多くの特別会員の皆様とご一緒できる事を楽しみにしております。



### ほたる会 会長杯



本年度2度目のほたる会例会が5月8日に晴天の下、開催されました。先輩6名、現役メンバー18名、総勢24名の多くの皆様にご参加をいただき、トーナメント戦を楽しみました。先輩と現役メンバーのペアでテニスをする事により、多くの会話が生まれ終始盛り上がりを見せておりました。また、お子様連れのメンバーも多数で参加いただき、親子で楽しくテニスをプレーすることが出来ました。ほたる会は、テニスを通じて、先輩ならびに現役メンバー同士の出会いや友情を育むことができるフレンドリーな同好会であり、毎年6回の試合を予定しております。内2回は県外青年会議所との親善試合になっております。これからも楽しい試合を企画・開催して参りますので、多くのメンバーの皆様のご参加をお待ちしております。

### ぶるぶるクラブスキー

平成28年2月14日、いぶきの里スキー場にて2016年度ぶるぶるクラブスキー・スノーボードツアーが開催されました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、先輩2名、現役メンバー11家族の36名という沢山のご家族に参加していただきましてありがとうございました。どの様な天候でも、同じ目的を持って参加をすると楽しく、普段あまり顔をあわせることのないメンバーとも懇親を深めることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、メンバーのお子様から沢山の笑顔とパワーをいただき、今年も開催出来たことに感謝申し上げます。来年度も同じ時期に開催を予定しており、ご家族を含めた会員の皆様と共にスキーツアーを通じて楽しい時間を過ごせるよう、企画して参りますので、是非ともご参加いただけますよう、よろしくお願いたします。



## 事業予告

### 岡山JC 魅力体験キャンプについて

#### 青少年育成事業

# 岡山JC 魅力体験キャンプ

場所:たけへの森公園

～「思い」でつながる子ども未来創造プロジェクト～

#### みんな大好き岡山JCキャンプ 概要

7月 23日(土)・24日(日)

開催日時:2016年7月23日(土)・7月24日(日)

集合場所:たけへの森公園 芝生ひろば

岡山市北区建部町田地子1571-40

参加対象者:小学生4～6年生

定員100名(応募締め切り後、抽選)

参加費:1名につき3,000円

申込み期間:2016年6月20日(月)9:00～

7月4日(月)20:00まで

小雨決行・荒天中止



#### お申し込み方法

申込期間 2016年6月20日(土)～2016年7月4日(日)まで

URL <http://www.okjc.org/2016/>

### うらじゃについて

## 第23回 うらじゃ2016 幹 魂 魂 魂 おかやま魂

2016年8月6日(土)&7日(日)

|岡山市中心部|

ボランティアスタッフ  
裏方募集中!